



## 第17回海外日本語教育研究会

# JF日本語教育スタンダード準拠教材 『まるごと 日本のことばと文化』 —その理念と概要—

来嶋洋美 八田直美 柴原智代

2012年3月3日

国際交流基金日本語国際センター

# 今日のお話



1. 『まるごと』の開発理念と開発の枠組み
2. 『まるごと』を使った教え方と海外の教室での試用
3. 『まるごと』の異文化理解
4. 学習者や教師の声

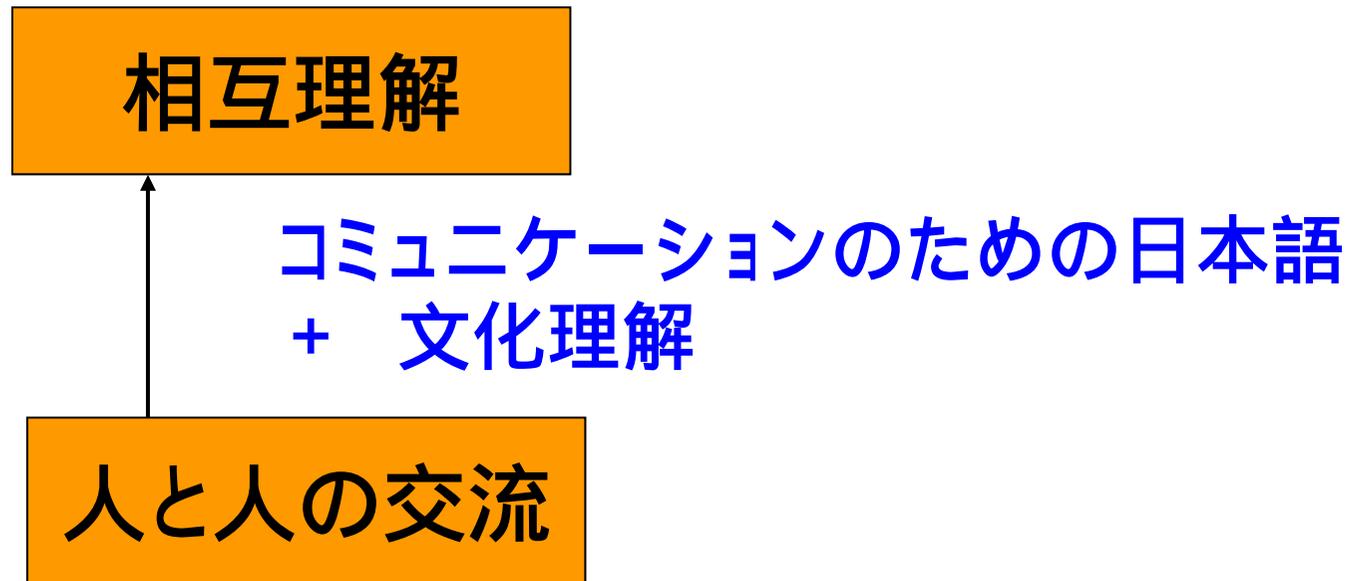


# 1 『まるごと』の 開発理念と 枠組み



# 1-1 開発理念 JFの日本語教材として

## JFの日本語教育とは？



# 開発理念



- (1) 『まるごと』が目指すもの: **相互理解の促進**
- (2) 開発するにあたっての前提
  - ・ **JF講座で使用するコースブック**
  - ・ **JFスタンダード準拠**
- (3) 日本語を外国語として学ぶ人たちのための教材
  - ・ **日本語に触れたい**
  - ・ **気軽、興味、楽しみたい**
  - ・ **日本についても知りたい**

# 1-2 『まるごと』開発の枠組み

## JF日本語教育スタンダード



- 1 理念「相互理解」
- 2 熟達度
- 3 トピック
- 4 課題遂行(Can-do)の学習目標
- 5 異文化理解学習
- 6 ポートフォリオ



## 1-2-1 理念 「相互理解」

### 相互理解のための日本語

#### → 課題遂行能力

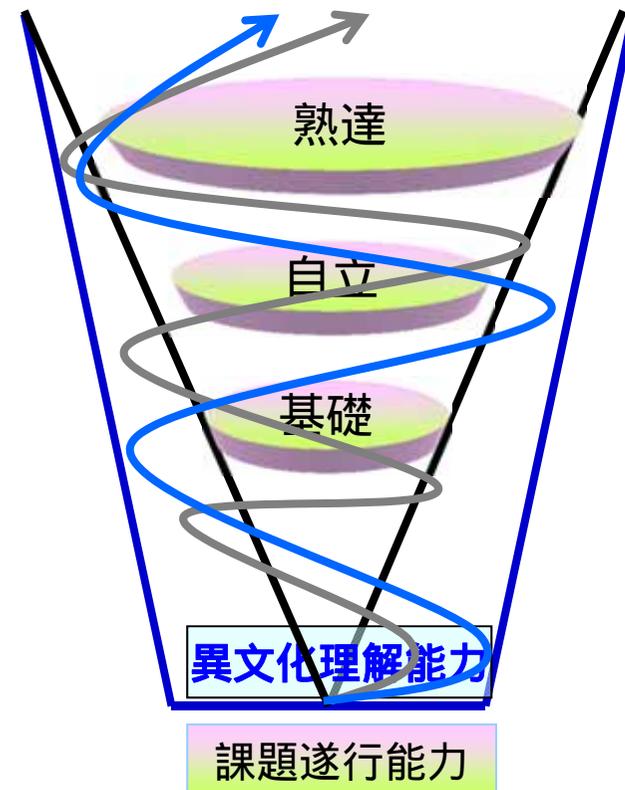
:日本語を使って何がどのようにできるか

#### 異文化理解能力

:さまざまな文化に触れることでいかに視野を広げ他者の文化を理解し尊重するか

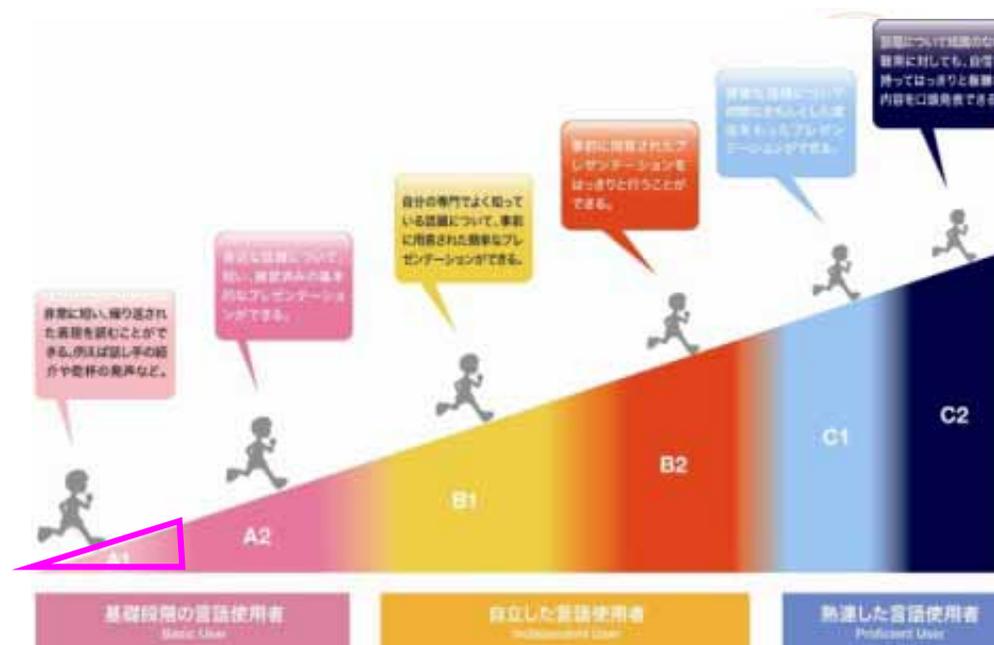
# 課題遂行能力と異文化理解能力

- 言語は文化と一体
  - 両者は相互に作用しながら発達するのが望ましい
- ことばと文化をばらばらではなく、いっしょに学ぶ



# 1-2-2 熟達度

## CEFRの言語熟達度



### A1 レベルイメージ

具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる

自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる

もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け舟を出してくれるなら、簡単なやりとりができる



# 『まるごと』入門(A1)の レベルイメージ

- 全体の雰囲気を読んで、  
コミュニケーションの場にいることができる  
話しかけられて、簡単に反応することができる  
覚えた表現を使って、話すことができる

だいじょうぶ？

たぶん。

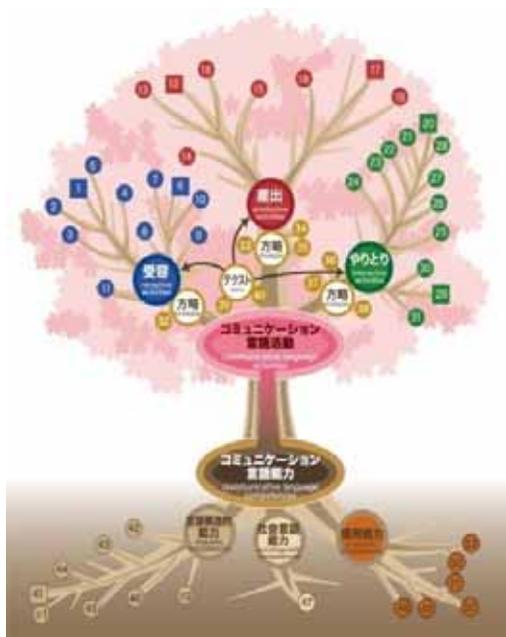
視覚的補助を使って、話すことができる。

# 1-2-3 課題遂行(Can-do)の 学習目標



## 入門(A1)

- 活動編 内容一覧 / Can-doチェック (50)
- 理解編 内容一覧 / 日本語チェック (57)



言語によるコミュニケーションのためには基礎となる**言語能力**が必要

この言語能力を使って、さまざまな**言語活動**を行うことができる

# 1-2-4 JFスタンダードのトピック



	入門	初級1		入門	初級1
1 自分と家族			9 食生活		
2 住まいと住環境			10 自然と環境		
3 自由時間と娯楽			11 人とのつきあい		
4 生活と人生			12 学校と教育		
5 仕事と職業			13 言語と文化		
6 旅行と交通			14 社会		
7 健康			15 科学技術		
8 買い物					

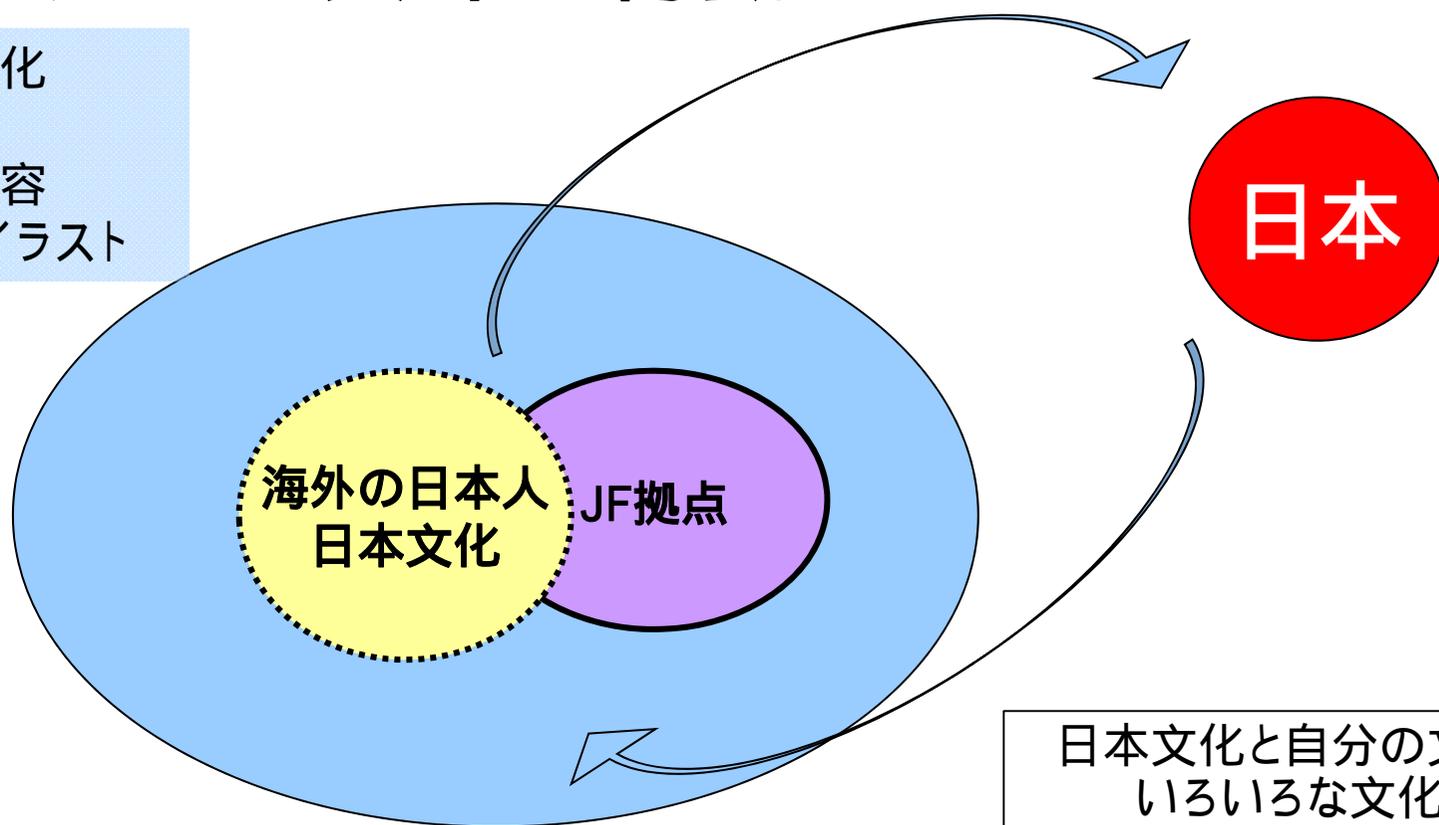
# 1-2-5 異文化理解



知る→興味→行動

豊かな文化体験

社会文化  
場面  
会話内容  
写真・イラスト



日本文化と自分の文化  
いろいろな文化に対する  
異文化理解能力へ

# 1-2-6 ポートフォリオ



## 評価表

- ・自己評価
  - Can-doチェック
  - 日本語チェック
- ・成績表(テスト結果)
- ・修了証明書



## 言語的・文化的 体験の記録

日本語・日本文化の  
体験記録



## 学習の成果

授業で書いたもの、  
作文

Biography

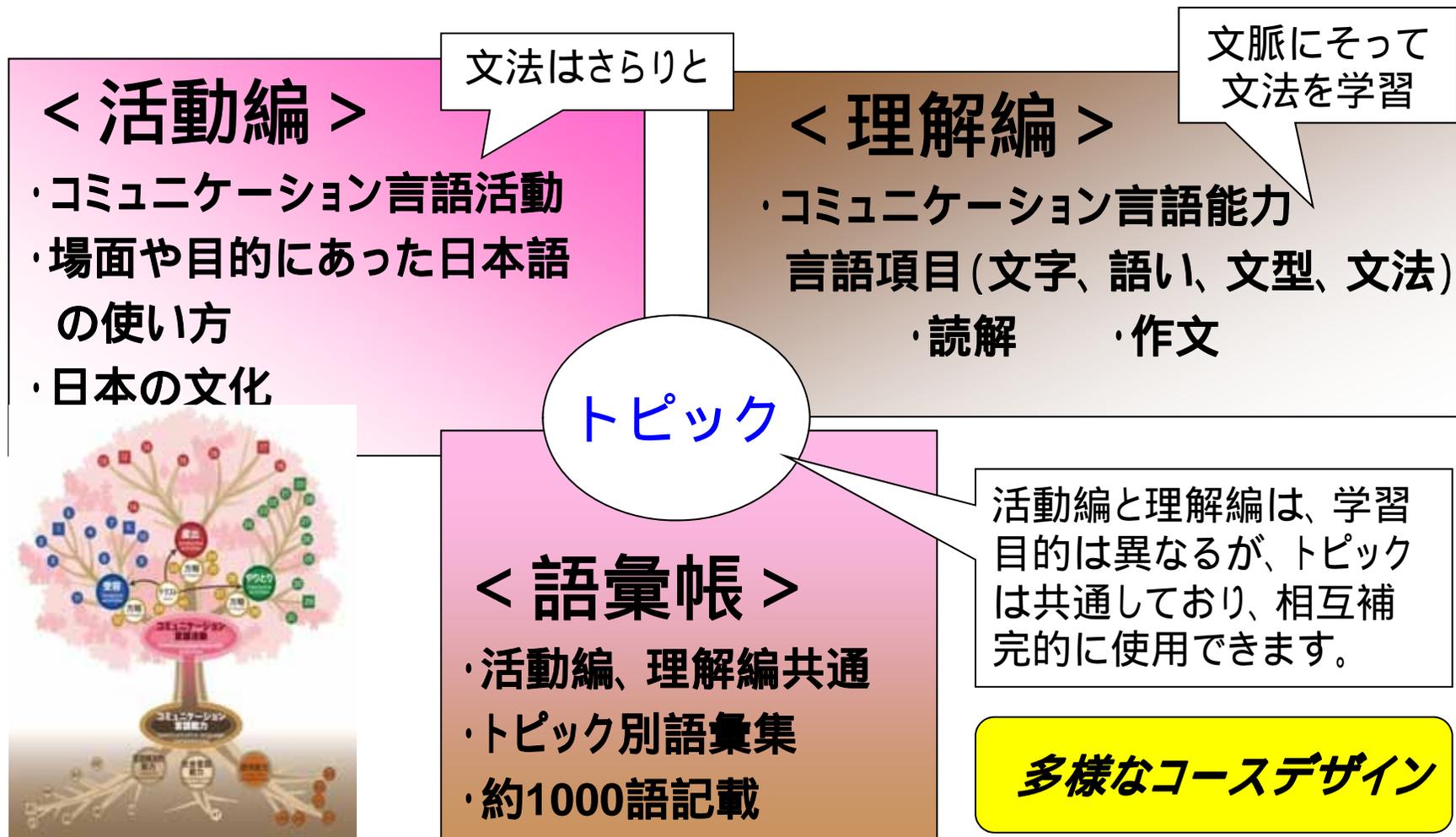
Dossier





## 2 『まるごと』を使った教え方と 海外の教室での試用

# 2-1 『まるごと』 入門(A1)の構成



## 2-2 課の構成 活動編



**とびら**：トピックとCan-doの紹介

**聞いて言いましょう**：語彙や場面の導入

**聞きましょう**：

聴解・モデルとバリエーション

**ペアで話しましょう**：

モデルにそって自分のことを話す

**読みましょう・書きましょう**：現実のタスク

**Can-doチェック**：達成の自己評価

## 2-2 課の構成 理解編



**とびら** : トピックと基本文型の紹介

**勉強する前に** : 学習内容についての質問

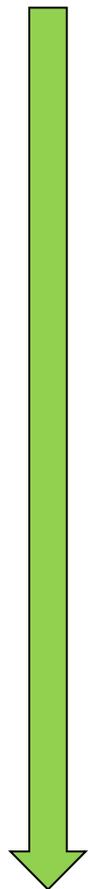
**文字とことば** : 語彙と文字

**会話と文法** : 文型を使った基本会話

**読解** : コミュニカティブな読み

**作文** : モデルにそって短いテキストを書く

**日本語チェック** : 学習の自己評価



# 活動編と理解編の関係



## 食べ物

何が好きですか

Can-do: 好きな食べ物が何か話す (交流会話)

コーヒー、飲みますか

Can-do: ほかにの人に飲み物を勧める (実用会話)

いつも朝ごはんを食べますか

Can-do: 朝ごはんの習慣について話す (交流会話)

ホテルの朝食ビュッフェ  
立食パーティー

文字とことば

・ 会話と文法

学習項目: Nが好きです。  
Nは好きじゃないです。

学習項目: NをVます。NはVません。

読解

「かぞくのおさごはん」

作文

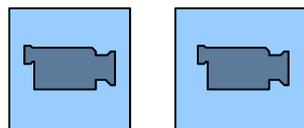
「わたしの朝ごはん」

## 2-3 海外の現場での試用

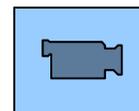


### 1. 活動編 (JF北京)

日本語体験講座



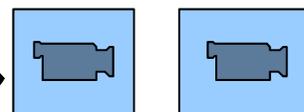
### 2. 理解編 (JFクアラルンプール)



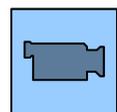
活動編 + 理解編 総合的な基礎コース

### 3. 学習者

(1) JFクアラルンプール



(2) JFマドリード





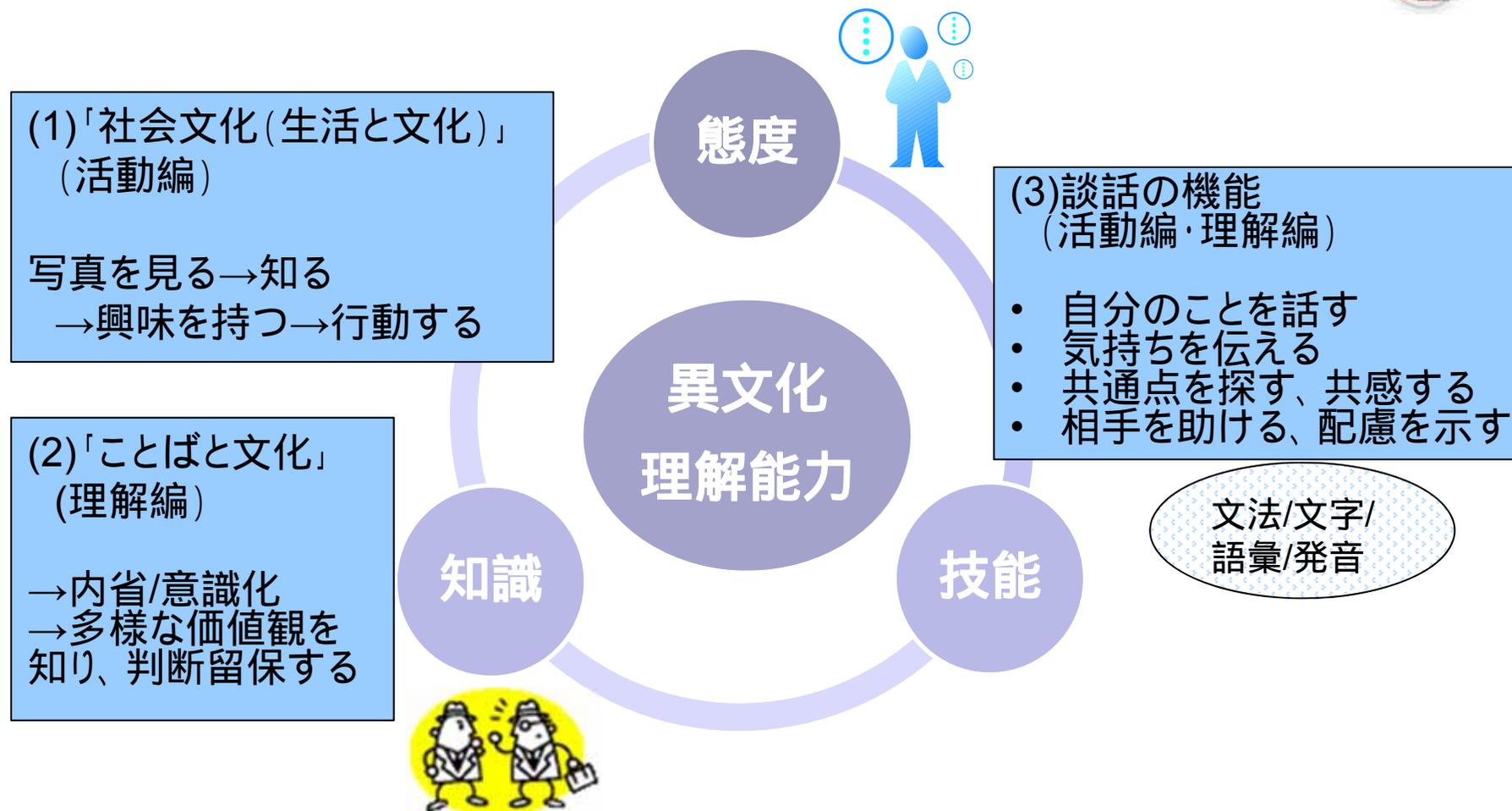
### 3 『まるごと』の 異文化理解

### 3-1 『まるごと』で イメージする 異文化理解能力を持った人



- さまざまな文化に触れることでいかに視野を広げ他者の文化を理解し尊重する
- 日本語を使って、相互に柔軟に調整しあう
- 人間関係構築のためにコミュニケーションできる

## 3-2 『まるごと』の中の異文化理解学習

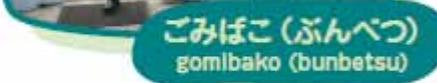


# (1) 社会文化(生活と文化)



トピック 生活

トピック 町

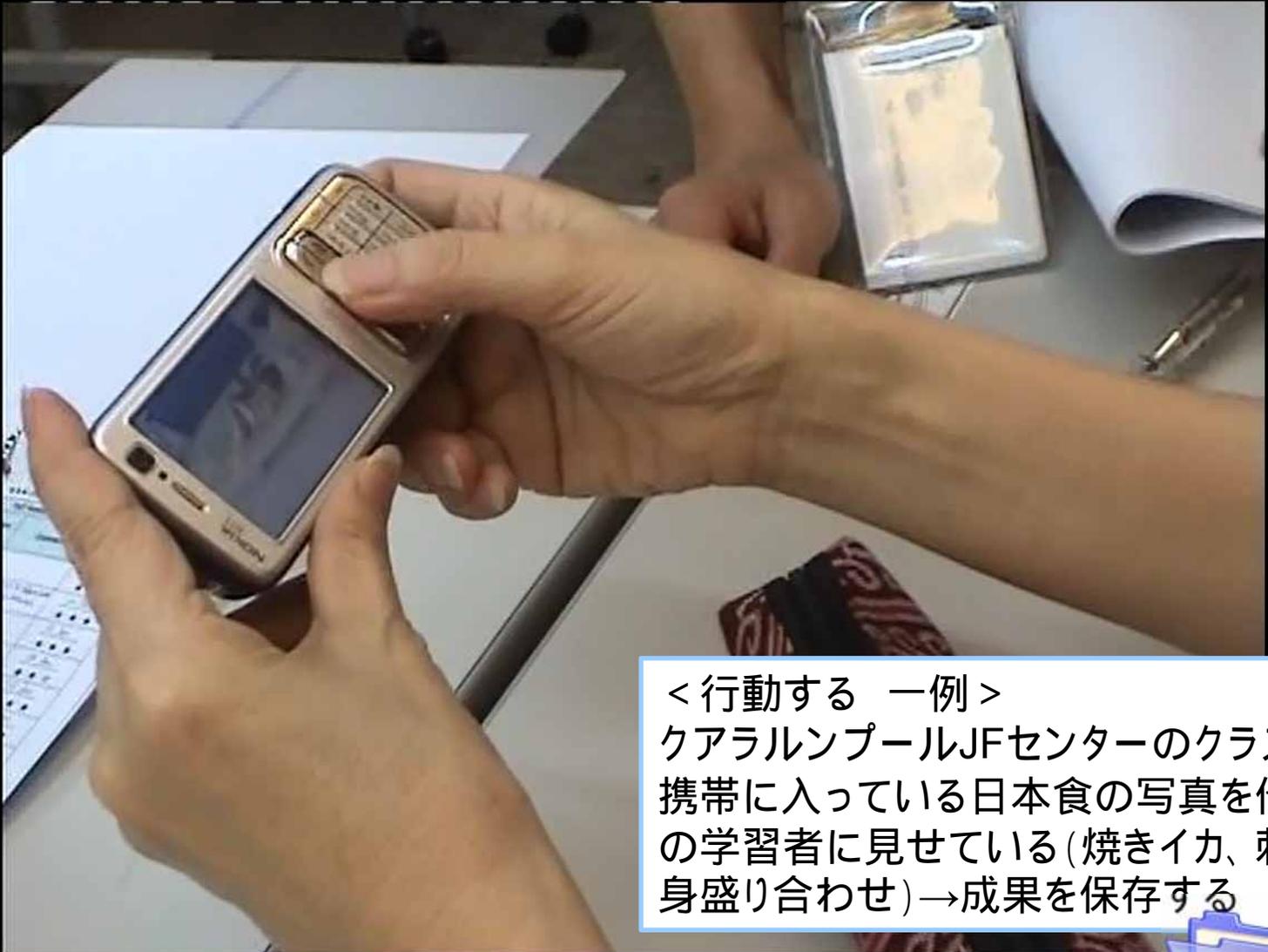


コト

モノ

写真を見る→知る→興味を持つ→行動する

Windows Media Player  
KL\_KAIWA\_TH\_TEST



<行動する 一例>  
クアラルンプールJFセンターのクラス  
携帯に入っている日本食の写真を他の  
学習者に見せている(焼きイカ、刺  
身盛り合わせ)→成果を保存する

24:36

スタート

A 般

15:41  
2012/02/24

25



# (3) 談話の機能

入門A1 食べ物



A日本人(出張、短期滞在) Bその国の人 📢

.....

A きょうは どこで 食べますか。

予定を聞いているのではない

B あの店で 食べましょう。

A ラーメンですか。

B はい、あの店は おいしいですよ。

A じゃあ、そうしましょう。

- 自分のことを話す
- 気持ちを伝える
- 共通点を探す、共感する
- 相手を助ける、配慮を示す



# (3) 談話の機能 初級1



Topic7 出張 空港での出迎え～ホテルまで  
A その国の人 B 日本人(出張者)



- A お疲れ様でした。ようこそ石川さん。  
B お待たせしました。出迎え、ありがとうございます。  
A フライトは いかがでしたか。  
B 快適でしたよ。すいていましたから。  
A そうですか。よかったですね。



- A ちょっと、電気、チェックします。でんきは・・・あ、つきますね。だいじょうぶです。  
B そうですか。

- 自分のことを話す
- 気持ちを伝える
- 共通点を探す、共感する
- 相手を助ける、配慮を示す



# 4 学習者や教師の声

## 4-1 学習者の声



- 授業でどれだけたくさんのお話をできたかということに驚いて感心している。
- 語彙帳のおかげで初日から恥や恐れなく話そうとすることができた。日本語は難しいという偏見が消えた。
- 日本語ができるようになりたいが、かななどで時間とエネルギーを使い果たしてしまいそう。自分はローマ字で勉強したいことに気づいた。
- 日本旅行に行った時など、実際の場面で役立ちそうだとイメージできた。使える実践的な内容に満足。
- イラストや写真などの助けで学習が容易になり、楽しみながら学べた。文化の紹介なども興味深かった。



## 4-2 教師の声

- 文型の定着は難しいが、教科書を見ながらでよいという考え方は、学習初期から機械的なドリルではなく、自分のことを話せるのでよい。
- 活動編ではトピック、場面、会話などがわかりやすくセッティングしてあるので、学習者も教材に引き込まれ、教師はそこから無理のない形で、コミュニケーション活動への誘導することができた。
- 理解編には、学習初期からトピックを共有した読解、作文、漢字が含まれていることは画期的。読解は、ゼロレベルの学習者にも推測できたので、衝撃的だった。
- 漢字を意味で捉えていく導入は学習者にもすんなり受け入れられ、正直いって目から鱗だった。この漢字の扱いはコミュニケーション運用能力の育成のひとつになっていると思う。



## 4-3 関係者の声

海外での反響

メキシコ、アメリカ、カナダ、インド、.....

新しい日本語教育